

TOYO

東洋大学校友会 鹿児島県支部

INFORMATION MAGAZIN of
KAGOSHIMA BRANCH
TOYO UNIVERSITY
ALUMNI ASSOCIATION 2019 Vol.14

令和元年度 甫水会通信

創立100周年記念支部会報



CONTENTS

100周年記念 特別4企画

- 02-03 松永副支部長挨拶・集合写真
- 04-07 特別企画第一弾・松下～西村 新旧支部長対談
- 08-09 特別企画第二弾・鹿児島県支部の歴史～歴代支部長紹介
- 10-13 支部創立100周年総会・祝賀会
- 14-17 特別企画第三弾・元 東洋大学陸上部監督・コーチ 佐藤 尚氏 講演会
- 18-27 特別企画第四弾・100周年に寄せて～校友からの投稿
- 28-29 校友近況報告・ボクシング部激励訪問ほか
- 30-31 甫水会通信・新年会案内ほか

写真 / 鹿児島県垂水市 海淵漁港と桜島の噴火 (2019.7.31)



祝 東洋大学 鹿児島県 支部創立100周年



鹿児島県副支部長
松永幹太

校友の皆様におかれましては益々御健勝で御活躍のこととお慶び申し上げます。日頃より校友会活動に御理解と温かい声援・御協力を賜り重ねて感謝申し上げます。今年は鹿児島県支部創立100周年という記念すべき節目の年でもありました。

去る8月3日に開催されました定例の支部総会や100周年記念の祝賀会には、大学本部校友会長の神田雄一様の御出席を賜り、また九州各県の校友会支部長様や歴代の浦水会鹿児島県支部長様をはじめ多数の方々の御参加をいただき盛大に行うことができました。執行部一同喜びに堪えません。

また、祝賀会に先立ち開催されました講演会では大学陸上部の監督・コーチを務められた佐藤尚氏を講師にお招きし、箱根駅伝をはじめ陸上競技にまつわる御講演をいただきました。会場には校友だけでなく、鹿児島市内高校の陸上部の生徒さん方もお招きしており、補助席を設けるほど大勢の皆様に参加していただきました。

今年は支部創立100周年ということで校友の皆様にご寄付をお願いいたしましたところ、たくさんの方々から御協力をいただき誠にありがとうございました。特に、普段支部総会に参加くださっている方だけでなく、お名前だけ存じ上げている方々からもたくさん御協力をいただき、執行部としても感謝の限りです。重ね重ね御礼申し上げます。

さて、母校東洋大学においても益々文武両道ともに目覚ましい発展を続けております。今年度の大学入試志願者数が過去最高の12万人を超え、前年の全国第5位から近畿大学に次いで第2位に躍進しました。これらについても、来年の東京オリンピックマラソン代表に決定した服部勇馬選手や陸上の桐生選手、水泳の萩野選手等の活躍も躍進に繋がっている理由のひとつであると思われまます。

元号は令和に改元されました。本県支部においては、次の100年に向け歩み始めたところです。今後も存知の校友に声を掛けていただき、会員の増強に努めるとともに会員相互の親睦を図る所存でございますので、何卒これまで以上に皆様の御理解、御協力のほどお願い申し上げます。



100
1919-2019



鹿児島県支部 新旧支部長対談

鹿児島県支部は令和元年(2019年)創立100周年を迎えた。その100周年を機に支部長交代を希望していた松下健一前支部長だったが、8月3日の総会でその申し入れが承認された。新しく支部長に就任したのは歴代支部長の元で副支部長の任にあつた西村正二郎校友。今回の支部長交代に当たり、三期の長きに亘つて支部長の任にあつた松下前支部長に任期期間中を中心に話を聞き、また、西村新支部長に就任に当たつて今後の抱負などを聞いてみた。

支部長時代 三期を振り返つて

●支部 松下前支部長殿、三期9年間支部長の任を務められ長い間ありがとうございます。ありがとうございました。支部長としての思いを是非お聞かせ願います。
●松下 いろいろあり過ぎて…(笑)
遡ること9年前の平成22年(2010年)9月4日、鹿児島県支部総会にて岩城前支部長の後任として、第8代支部長に

会則に目を通しました。校友会の目的は会則にありますように「東洋大学建学の精神を顕現し、会員相互の親睦を図り東洋大学の興隆発展に寄与すること」とあります。
つまり東洋大学校友会とは第1に親睦団体であるということ。第2に母校の発展に寄与する団体であるということ。経済的色合いや政治的な色合いを持つ会ではなく、あくまで親睦団体です。でも、私の支部長就任の以前から校友会は到底「親睦団体」とはいえないような事態も起きておりまして。それは支部のことだけでなく、全国支部長会議等に出席してもそれを感じておりました。残念なことにも校友会を去つていく校友もいました。ですので、もう一度「親睦団体」の根本に立ち返ろうと思つたのです。「新卒の20代会員から100歳代の大先輩の方々まで多数の世代を超えていかにして交流することができるか」参加してよかつたと思つても、これをやるには具体的な「母校の発展に寄与するにはどうしたら良いか」等々就任後の年間、運営に関して自問自答してきました。
そこで引き出した答えが「支部100周年に向け新しいモデル支部を目指す」ということでした。平成23年の支部会報の挨拶文にその時の気持ちを述べております。
これからの校友会支部

新しいモデル支部を目指す

思い出せば、就任して翌年の平成23年は政治も経済も混沌の年だつた上に、3月11日の東日本大震災、台風12号の風水被害、出水市の鳥インフルエンザ、奄美大島の百年に度と言われた、大雨災害が二度発生するなど全国的にも誠に災害の多い年でした。
そんななか「モデル支部を目指す」ということで、三期の間、多くの校友の力を借りることが出来ました。感謝の言葉しかありません。
具体的内容としては、校友会・浦水会合同新年会は箱根駅伝祝勝会も兼ねて定番になりましたし、数回ではありましたがお花見会も行いました。第一回目の花見会は校友の池田日道君のみどり荘で行いました。東日本大震災の直後でしたので、全国的に自粛ムードもありましたが、こう



前支部長(第8代) 昭和47年法
松下健一



理由で命名されたのですか?
●松下 南薩摩の笠沙町という漁村から上京してきた私でしたが、東洋大学が拾ってくれたのです。入学と同時に空手部に入部、3、4年の時に全日本大会を連覇しました。4年の時は授業料を免除してもらいました。思えば東洋大学に育てられた4年間だつたと思います。愛校心でしょうか、自社名を東洋警備と命名しました。



新支部長(第9代) 昭和44年文
西村正二郎



姿を見ております。この9年間、支部は活動的だつたと思います。

昭和…当時の支部長の思い出

●支部 さて、松下前支部長は校友会に大変長く携わつておられますが、何歳の頃からでしょうか?
●松下 大学を昭和47年(1972年)に卒業し、それと同時に校友会に参加しました。当時の支部長は鹿児島県議会議長をされていた秋丸光良支部長(第4代目)でした。県会議員だけあつて話が上手でした。秋丸支部長のあとの木場正義支部長(第5代目)にはとてもお世話になりました。この頃から幹事長や代議員を務めるようになりました。九州ブロック会議など秋丸支部長(その時は私はヒラでした)や木場支部長に幹事長、カバン持ち兼車付き運転手として連れていくていただきました。あの頃の私は30歳で松下産業を立ち上げて、ほんの「隣」でしたがバブル期でしてクラシクな濃紺のベンツに乗つてました。多分、支部長達は私のベンツに乗つて会議とか行きたかつたんでしょ(笑)

時間前に秋丸光良支部長や木場正義支部長が当時の私の狭い事務所に来られるんですよ。それで決算やら支部総会の準備をされるのです。それはまあ良いとして、いろいろな書類仕事でウチの事務員に清書を頼まれるんですけど、木場正義支部長は字が汚くて読めない(笑)
木場正義支部長のお兄さんは隆亮(たかすけ)といい第2代目の支部長でした。兄弟して校友会の支部長を務められお世話になりました。私は木場兄弟に可愛がられました。昭和62年(1987年)4月には木場兄弟と中国の長沙市(湖南省)に行つたこともありまして。当時、鹿児島市と長沙市は友好都市でして、私も木場兄弟に民間交流の雑用係として誘われたのですが、楽しい思い出です。6回ほど行きましたし、一度は人民日報にも載りました。支部での役員歴は幹事長が番長く20年ほど、副支部長10年、代議員は20年近くやりました。

●西村 松下前支部長はいろいろな交流会、校友会本部の方々をよくご存知ですね。その繋がりはどうやって生まれていくのでしょうか?
●松下 若い20代の頃から校友会に関わつていたということがあるからでしょう。それと意外と文化系・体育会系の両サークルサークル関係の人たちが代議員等を構成されているから、他の部の人と合つても愛校心の集まりということ直ぐに親しくなつていきます。
●西村 東洋大学や母校のスポーツ選手のことにも非常に詳しいですね。
●松下 東洋大学スポーツ新聞は卒業してからずっと購読しています。今は年間1500円です。東洋大学の名前が載つている週刊誌があれば片端から買つています。

西村新支部長に期待する内容

●支部 最後に西村新支部長に期待されることは?
●松下 西村先輩は人当たりが良く、そして校友に手紙をよく書かれたりとかママに動かれる方なので、副支部長、幹事長の経験を活かして頑張つて欲しいです。
●西村 了解しました。身の引き締まる思いですが、腹をくくろうと思つています。

特別企画第一弾
鹿児島県支部創立100周年
鹿児島県支部 新旧支部長対談

いう時こそ旅館経営の池田君を応援しようとしてやりました。
また西村副支部長と一緒に浦水会の支部総会等に出席、浦水会と連携を図り若手会員を増やせるように動きました。
レディース会が暫く休止していたので、野村副支部長にお願いして活動を再開してもらいました。西元幹事長の力を借りて支部会報を年一回発行し、松永副支部長の力を借りて会計監査の充実化など。
体育会OBの先輩方の力を借りて、多くのスポーツ合宿の誘致・激励訪問、奄美大島に行き奄美の校友と交流を拡大、慶弔時にも会則の範囲内で執行部のメンバーで行くようにしました。
羽島前校友会長をお迎えして95周年記念行事もやりました。途中、本部の方で大幅予算削減などありましたが、これまでの支部の活動としては活発な方だつたのではないのでしょうか。もちろん多くの校友の力があつたから出来たことです。
ただ残念だつたのは、若い校友を思った程に増やすことが出来なかつたことです。これは新支部長にお願いいたします。
●西村 私も副支部長として松下前支部長が支部運営で本当によく働いている

●西村 私副支部長として松下前支部長が支部運営で本当によく働いている

●西村 松下前支部長は会社名を東洋警備とされていますが、あれはどういった

西村新支部長 支部長就任にあたって。

●支部 西村新支部長にお尋ねします。これまで校友会での思い出などお聞かせください。

●西村 大学を卒業した昭和44年(1969年)の時、校友会の支部長(第3代目)が伊勢虎夫先生(鹿児島実業高校校長)だったので就職のお願いに行こうと計画しましたが、実業に行く前に母校の鹿児島高校へ面接に行ったら運良く採用されて、結局、計画倒れに終わったのを思い出します。

これからの活動方針

●支部 今回、支部長就任に当たり抱負をお聞かせください。

●西村 松下・松永・野村副支部長、西元幹事長、そして顧問の岩城先輩、相談役の渋谷青木高司先輩、幹事・監事の皆様方の協力をいただきながら校友会をより良い会になるように努力したいと思っております。

●支部 松下副支部長には前支部長としていろいろと相談に乗っていただいたり、東洋警備の会議室の借用や代議員として大学とのパイプ役をおねがいしたいです。

●西村 松永副支部長はとにかくマメで真面目な人、会計のことはもちろん、打ち合わせや総会等の議事録等全て記録して「あれは何だったかな?」等のすっきり忘れてしまったことは松永君に聞けば直ぐに答えが出てくる人なので本当に助かっています。これからもこの調子でお願いします。

●支部 野村副支部長には女性校友のとりまとめをお願いします。

●西村 西元幹事長にはまず支部会報の制作、そして校友会本部とのやりとりをお願いしたいです。お願いばかりですが、以上の役員で頑張っていきます。

●支部 松下前支部長が進めてこられた校友会合宿の誘致、奄美大島鉄紺会や浦水会支

部総会への参加等、引き続き交流を深め盛り上げていきたいです。そしてお一人一人のお名前を覚えたいです。

しっかりと臉に焼き付ける

また総会や懇親会に来られた校友の方々の顔をしっかりと臉に焼き付けたいと思っております。そのために単に総会の案内ハガキを校友会本部から一括発送するのではなく、私の一言コメントを添えて発送しようと考えております。

●松下 西村先輩がハガキに筆入れられているのは感心しています。ただ、あの枚数ですから、あれは大変な作業ですよ。筆不精な私にはとても真似できないですね。頭が下がります。

●西村 いえいえ。教職の頃、毎日のように生徒全員の答案用紙等にいろいろと書



新体制になっても顔ぶれは変わりません。これからも宜しくお願い申し上げます。

いておりましたので、書くのはちっとも苦じゃないんです。案内ハガキ以外に、支部会報を送り続けていることで「退職したので…」鹿児島島に戻ってきたから…」という理由から「あの盛り上がりがある懇親会の写真に自分も加わりたいな」と思ってきたり、自分も思うのです。今年も近野さんという女性の方が鹿児島島に帰ってきたからということで初参加して下さいました。嬉しく本当にありがたいことです。

歴代の支部長の方々への感謝

●西村 最後に歴代の支部長の方々についてお礼を申し上げます。

100年前の大正6年に初代支部長として坂元常盤氏が鹿児島県支部を立ち上げられた。これは全国で4番目です。新潟(明治19)・愛知(明治29)・山口(明治30)そして鹿児島でした。しかも、坂元支部長は40年近い長期間に亘って支部を運営され、昭和32年に老齢を理由に2代目の木場隆亮支部長にバトンタッチされました。そして伊勢虎夫支部長(3代目)・秋丸光明支部長(4代目)・木場正義支部長(5代目)へと続いていきます。後は皆さんの記憶に新しい村松勇支部長(6代目)として現在、顧問をお願いしている岩城健支部長(7代目)ですね。

この先代の先輩たちの志を受け継いで母校東洋大学の発展を祈念しつつ、お一人お一人を大事にしながら鹿児島県支部を盛り上げていきたいと思っております。

●支部 本日はお忙しいなか、松下前支部長、西村新支部長に対談いただきありがとうございます。支部の長い歴史の重みを感じるとともに、新しい支部のありかたを考えさせられたひとときでした。



特別企画第一弾 鹿児島県支部創立100周年 鹿児島県支部 新旧支部長対談

●支部 今の校友会について思っていることはありますか?

校友会について思っていること

●西村 100周年記念大会の時に本当に多くの校友が寄付をしてくださりました。この寄付は普段総会に参加していただく校友だけでなく、お名前は知っていてもまだ校友会に参加されたことの無い多くの校友の方々が寄付をしてくださりました。なぜ、そのような寄付をしてくださったか?と思うと、今、東洋大学が箱根駅伝、野球、ボクシング、水泳など大活躍していること。また、高校生の志望受験者数が近畿大学について第一位と大学が頑張っ



第88回箱根駅伝 東洋大学総会開催 定例行事になった校友会・浦水会合同新年会(2012年1月)



母校卒業生で俳優の高橋光臣氏来鹿の折に(2017年5月)



全国代議員会議(東洋大学白山2011年)



支部初のお花見会(吹上温泉 みどり荘 2011年4月)



全国大学社会人相撲大会(2011年5月)



ボクシング部合宿激励訪問(出水市総合体育館 2017年3月)



池田聡司君披露宴(2016年12月)



浦水会訪問(毎年7月)



奄美鉄紺会訪問・陸上部奄美合宿激励訪問(2016年2月)



創立95周年支部総会・浦水会合同懇親会(2014年7月 サンロイヤルホテル)



陸上部合宿激励訪問(2018年3月 伊集院ゆすいん)



校友会九州沖縄ブロック会議(2013年11月 熊本)



2010年 支部会報 2011年 支部会報 2012年 支部会報 2013年 支部会報 2014年 支部会報 2015年 支部会報 2016年 支部会報 2017年 支部会報 2018年 支部会報



2011年 波瀾万丈 取材訪問 2012年 波瀾万丈 取材訪問 2011年 浦水会校友会支部対談 2014年 発掘ザ校友 浦水会通信 2011~

特別企画第二弾 鹿児島県支部創立100周年

鹿児島県支部の歴史

写真で蘇る支部の昭和・平成 岩城顧問アーカイブス



昭和56年支部総会(8月22日(吾妻庵))



岩城顧問アーカイブス 支部の歴史的写真を網羅したコレクション

今回の写真は岩城顧問からお借りしました。昭和40年代から現在に到るまで、年代順に写真や手紙等が台紙に貼ってあり、アルバムの1ページ目には目録まで付いていました。ここまで丁寧に写真や記録等を残すのはなかなか出来るものではありません

まさに支部のアーカイブスだと思います。写真に関しては、30年以上経ったアナログ時代のプリントが経年の変化はあるものの、キズも無く、然程に退色せずに残っていたので、スキャナーで取り込んでから色補正処理も最低限の作業ですみました。

歴代支部長ならびに役員概要

校友会100周年記念誌(1994年発行)鹿児島県支部紹介ページより転載

「東洋大学一覽」(昭和8年11月23日発行)によると当時すでに三州(薩摩・大隅・日向)校友会支部が結成されており、昭和3年8月20日、会則も成文化されている。この事実から本県支部は鹿児島県支部と呼称される以前から校友会の結成がなされており、しかも、大正8年頃(1919年)までさかのぼると伝えられている。よって、本県支部は新潟(明治19)・愛知(明治29)・山口(明治30)に次いで全国的にも古い歴史と伝統に輝いている。

初代支部長 坂元常盤氏(大正8〜昭和32)

大正8年には既に支部を結成し昭和32年まで戦前・戦後を通してそのとりまとめに奔走した。氏は旺盛な気迫の持ち主で幅広い社会活動家として知られていた。その主な役職は鹿児島県神社総代、鹿児島市商工会議所常任理事、鹿児島市区画整理委員、自由民主党鹿児島県支部長(初代)、自由民主党相談役、鹿児島一中同窓会会長(初代)、南光建設(株)社長などを務め、活躍された。

第2代支部長 木場隆亮氏(昭和33〜昭和38)

昭和9年社会教育社会事業科卒業と共に、鹿児島朝日新聞社(現南日本新聞社)に入社。太平洋戦争中は従軍記者として中国大陸を歴任活躍され、戦後は南日本新聞社取締役編集局長、工務局長を歴任、その後、日本民芸協団鹿児島支部長・同顧問に就任。「民芸のさと」を経営、「平佐焼」の陶芸コレクションの第一人者として名をはせ、更に、健康管理をみずから実行され、さまざまな人生の想いを「爽やかに歩く」という著書にまとめられ、たちまちベストセラーとなり再販の好評を博した。

第3代支部長 伊勢虎夫氏(昭和38〜昭和45)

昭和16年史学科卒業。在学中、代々木練兵場で閔兵分列行進の際、東洋大学全学生の総指揮を務めるなど、気概に燃え、のちに認められて鹿児島実業高校長に栄任。意気天を衝く気概は同行の運営にも生かされ、天下の鹿実の基盤は氏によって樹立されたことは自他共に認めるところである。

第4代支部長 秋丸光良氏(昭和45〜昭和60)

昭和6年専門部倫理東洋文学科を卒業後、煙草専売公社に入社。後に推されて鹿児島県議会議員となり、24年間に亘って活躍。副議長、自民党県議団会長などを歴任された。のちに東洋大学代議員、東洋大学理事、評議員の要職にあり、母校発展のために活躍された。折しも東洋大学評議員の会議中に倒れそのまま帰らぬ人となった。

第5代支部長 木場正義氏(昭和60〜平成8)

昭和7年専門部倫理東洋文学科卒業。卒業後鹿児島県公立高校に勤務、長年校長職を歴任、更に乞われて岩崎グループ社長室長調査役に就任。第4代秋丸支部長と共に評議員、代議員として連携して母校のために尽力、鹿児島県支部の名を全国に馳せたことは有名。なお、第二代支部長の木場隆亮氏は正義氏の兄であり、兄弟共に同学校友でしかも支部長の任にあつたのは異例のことである。

高口 稔氏(昭和34史学)

県下唯一最大を誇る鹿児島市立鹿児島商業高校長として活躍。県教育界にその名を馳せている。(補足/平成9年種子島教育長に就任、平成19年瑞宝小綬章受賞)

岩城 健氏(昭和40経済)

県支部前幹事長、支部の運営の協力。旭ホーロー工業現・旭プラネットの社長として活躍中。(補足/平成19年より第7代支部長に就任、平成22年までその任にあたる)

渋谷俊彦氏(昭和42経済)

出水市議会副議長として将来を嘱望。(補足/平成11年に出水市長に就任、再選を繰り返し、平成30年まで長期に亘り市長職にあたる)

松下健一氏(昭和47法律)

県支部幹事長として組織の強化を図り、校友相互の親睦協調、母校校友会並みに父兄会県支部と連携、後輩の就職指導に尽力中。尚、松下産業の代表取締役としてその活躍は業界の注目をあつめている。(補足/平成22年に第8代支部長に就任、平成31年まで三期務め令和元年より副支部長。現在、東洋警備代表取締役社長)

校友群像

藏前杜吉氏(昭和24哲学)

評議員・代議員、副支部長。東洋大学創立100周年記念「母校賛歌」あしたに仰ぐ「四聖像」の建設、支部の愛称「四聖会」の普及等母校の発展と共に支部の組織強化に尽力した。更に「霧島プリンスホテル」社長として活躍中。(補足/平成9年4月27日逝去)

村松 勇氏(昭和34国文)

県支部副支部長として尽力、とくに第三代支部長伊勢虎夫氏の下にあつて、鹿児島実業高校の

写真を探しております。

初代 坂元常盤氏

三代 木場隆亮氏

四代 秋丸光良氏

三代 伊勢虎夫氏

五代 木場正義氏

六代 村松 勇氏

七代 岩城 健氏

八代 松下健一氏



恒例のじゃんけんゲーム
 その後は恒例のじゃんけんゲーム。多くの校友から焼酎、お菓子、温泉入浴券、そして

乾杯と開宴
 そして渋谷俊彦校友の乾杯。「初代支部長坂元常盤様らの発起があったからこそ今日がある。この100周年、次なる200周年と続く事こそが、東洋大学の発展へと続く事である。それは、私たちがしっかりすることが大事である。」と話され、大きな声で乾杯となる。

乾杯と開宴
 宴半ば、アカリノート(新支部長の息子さんのギター弾き語り。「青春時代」乾杯、幸せなら手をたたこう)など皆で歌える歌、身体を動かせる歌と会場が一体となり盛り上がる。

1、会員の増強を図る
2、財政基盤を確立させる。そして社団法人化をめざす。
3、透明性のある運営。
 その後、オープニングセレモニーとして甫水会OBの平瀬壺子さんら3人による三味線演奏。引き続き、松下支部長が所用で欠席のため西村新支部長があいさつ。

その後、九州各県支部長を代表して長崎県支部長上園茂樹様より祝辞をいただく。「鹿児島県支部の活躍は、毎年いただいている支部定期的にお送りいただいている支部会報から十分伝わっております。鹿児島県の会報は、全国61支部の中で一番だと思えます。」と、会報の素晴らしさを褒めていただいた。継続してきて良かったと思う。

次に鹿児島県甫水会を代表して池田司様より祝辞をいただく。「甫水会と校友会との深い繋がりを感している。社会人となった息子も先輩方と交わりながら成長する姿を嬉しく思っている。」と話される。池田様には今回の会場を提供いただき、いろいろと相談に乗っていただいた。感謝である。

創立100周年記念祝賀会
 写真撮影のあと、創立100周年記念祝賀会。まず校友会会長 神田雄一様より校友会の近況報告をしていただく。新会長として3つのことを掲げ、話される。

佐藤尚氏(元陸上部監督)による講演
 午後4時45分から5時45分まで佐藤尚氏(元陸上部監督、コーチ)の講演会。演目は「東洋大学と箱根駅伝」。校友、その他、県下高校の陸上部員と思われる高校生やその関係者が130名以上参加する。予想を遥かに超えた来場数、椅子を慌てて追加する。きわめて盛大な講演会になった。講演内容の一部を今回の支部会報14〜17ページに掲載してあります。





各県から特産物のお土産などとじゃんけんをしながら当選者を決める。

奥村司校友の「ちゃんむし」健康体操

さらに終盤、奥村司校友の健康体操。鹿児島島の歌「ちゃんむし」の歌に合わせて心地よく身体を動かす。

新しい生気を取り戻したところで、箱根駅伝往路優勝の瞬間の映像を大型スクリーンで見ると田中選手がゴールしたその時、会場は割れんばかりの拍手が起る。その盛り上がりの中で、そのまま東洋大学校歌が会場いっぱい響きわたる。

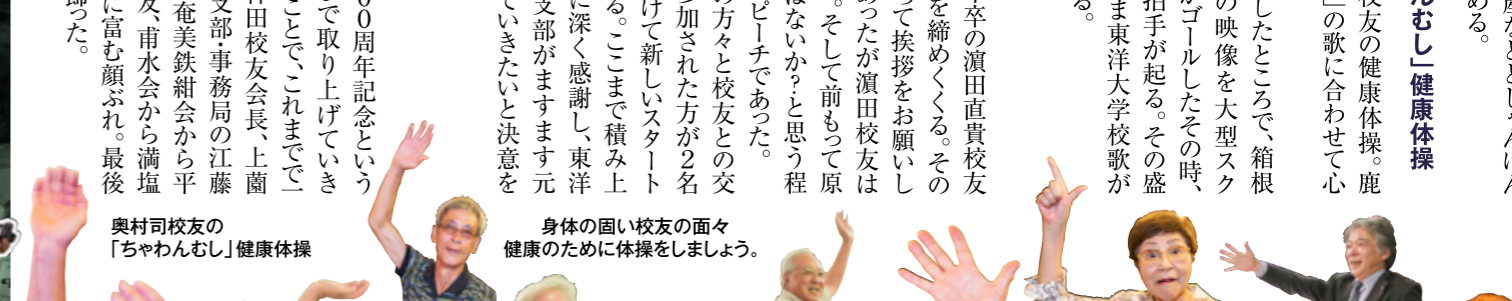
101年目に向けて

そして最後、平成24年卒の濱田直貴校友による一本締めで祝賀会を締めくくる。その濱田校友には直前になって挨拶をお願いした。突然のお願いではあったが濱田校友は快く引き受けてくれた。そして前もって原稿を準備していたのではないかと、思う程全く淀みのない見事なスピーチであった。

今回の祝賀会、来賓の方々と校友との交流もあり、また初めて参加された方が2名あり、101年目に向けて新しいスタートが出来たように思われる。ここまで積み上げてこられた諸先輩方に深く感謝し、東洋大学、そして鹿児島県支部がますます元気になるよう、頑張っていきたいと決意を新たにす事である。

盛り上がった二次会

さて、今回は創立100周年記念ということで、二次会の模様まで取り上げていきたい。参加者が多かった。神田校友会長、上籾長崎県支部長、大分県支部事務局長の江藤氏は奥様と二人で参加、奄美鉄紺会から平川校友、平校友、上高校友、浦水会から満塩前支部長とバラエティーに富む顔ぶれ。最後は奄美の踊りで締めを飾った。





特別企画第三弾

鹿児島県支部創立100周年記念

東洋大学陸上部 元監督・コーチ **佐藤 尚氏 特別講演会**

感謝の道

佐藤 尚氏特別講演会(2019年8月3日)を収録、支部会報用に編集・構成しました。テープ起こし/西村セツ、内容抜粋/横山龍夫、構成レイアウト/西元大作



初総合優勝してから11年

東洋大学陸上部元監督・コーチでありました佐藤と申します。支部の皆さまには、支部創立90周年の時お伺いしてひと言話したという記憶があります。その時も高校生の皆さんがお見えになったと記憶しています。OBの会ですので、ホラ位言っただけでいいかなと簡単な気持ちでしたが、多くの高校生の真面目な人たちが来ていますのでしっかりとやらねえといけないなあと会場に入つて逆に身を引き締めたという状況でございます。

東洋大学は箱根駅伝11年連続3位以内です。優勝するのはすばらしいことです。でも、今の箱根駅伝で11年連続3位以内を確保することは相当難しい技です。最後の年に優勝して終わらなかつたのです。3位で終わったということで、残念ではありますが、最低限の仕事ができたという感じですね。初総合優勝してから11年になります。それまでの箱根駅伝は、出るだけの東洋大学でしたが初優勝しました。それからもう変わった。やはりチームも変わりましたし、学校にとりましても非常にいい効果をもたらした経緯があります。それだけスポーツの力つて大きいですね。皆さんも一生懸命スポーツをやっておられると思いますが、勝負にこだわっている、そういう見方をされます。特に駅伝とか陸上とは違います。メジャーです。

2020年 東京オリンピックに向けて

2020年、東京オリンピックがあります。皆さんのなかでも出場したいという気持ちを持つ方も多いと思います。今、東洋大学では、すごい人数が出場に

す。非常に近いところにいるなと思います。

あと、もう一人、高校時代と同じ静岡にいて勝負をしていた川野将虎君という選手がいます。川野君は逆に50kmに挑戦しています。50kmというのは、今回オリンピックの最後になります。50kmというのは、僕も何回か試合に付き合いましたが、朝飯食べて昼飯食べてもまた歩いていきます。それがちよつと皇居前でやりますので、全く遮るものがない炎天下です。これもどうなるかわかりませんが、むしろチャンスがあるのかなあとと思います。そういう意味で陸上部はこれからMGCにチャレンジする5人、短距離の2人、跳躍1人、競歩2人、それから設楽はもしかしたら1万メートルもねらっていくという可能性も持っています。そういう面では、これから東京オリンピックに陸上としては一生懸命向かっています。

向けチャレンジしています。陸上では皆さんご存知の日本で最初に9秒98を出した桐生祥秀君。それから、ウォルシュジュリアン君。彼等はまずはほとんど当確ではないかな。今回世界選手権をです。

桐生君の場合は400mリレーの今、世界ランキング2位の3走です。彼は3走したら世界でトップです。9秒97の選手もやられていますから。僕もリオ・オリンピックの時に教え子が3人出ていたんで応援に行きました。じかに桐生のバトンを渡すところを見たんですが、すばらしいです。むしろ100mをバトンを持って走った方がいいんじゃないかという位の加速をします。感覚的なすこいものを持っています。多分、世界陸上には出ると思います。

それから、ウォルシュジュリアン君。一応、日本の4×100mリレー(※1)の出場資格をとりまします。世界選手権にも出るので多分大丈夫だと思います。日本人でトップの選手です。彼は顔を見れば外国人の様ですが、埼玉県人です。英語は話せません。いやびつくりしますよね。埼玉で育つて埼玉で今貢献しているという。彼は今、富士通です。この二人は間違いないと思います。

9月15日MGCマラソン(※2)の最終選考会が行われます。朝の7時には30℃を越すだろう、大変なレースになるんじゃないかと思われまします。このレースに関しては、ベイスメーカーがつかまいません。よーいどん、完全に2人までとなりまします。その出場資格が25人いるのですが、その中には東洋大学出身者が5人います。一番多いです。あと青山が4人、駒沢が3人です。これだけの選手を輩出できたのは、やはり大学を通して、箱根駅伝を通して、社会人になっても順調に推移している選手が多いという捉え方をしていると思います。

皆さんご存知の設楽悠太君。彼の場合は、持っているものが違います。努力だけでは、他に水泳もご存じの通り強いです。この前世界水泳400mメドレーで大橋悠依さんが銅メダルを取りました。それから白井璃緒さん、今2年生ですが、入賞したんです。また、青木玲緒樹さん、卒業生ですね。4位に入賞しました。

ただ、どうしても一人忘れてはいないか、と思う人がいます。萩野公介君。再デビューじゃないですが、今日東京レースでやっています。大分気持ち的に厳しい時期もあつたようですが、ようやく乗り越えて今回出場しています。結果はまだ確認していませんが、それなりの形が出るのかな、と思います。ただ再デビューのようなものですか、相当ゆつくりやつてるでしょうから、あくまで東京で再デビューのような形で動いていると思います。

ボクシングでは堤駿斗君という2年生がいます。彼も有力候補になつているようです。今回、東京オリンピックで初めてポルタリングというのがありますね。壁の突起物をぶら下がって乗り越えていく競技です。その日本女子チャンピオン野口啓代さんは東洋大学のライフデザインを中退された方です。大学の健康スポーツ学科に入られた方です。

皆東京オリンピックに向かっていてというのが大学の状況です。そういう面ではリオに行つた時より人数が多くなるんじゃないかなと思います。ぜひ東京開催なので学校としても、バックアップの達成をお願いしたいと思います。

強い選手とは何か?

駅伝というのは、スピードで行く出雲の駅伝、バランスで行く全日本大学駅伝、スタミナで行く箱根駅伝とあります。スタミ

やつている選手ではないです。ただ、その個性というものが勝負的な駆け引きはやはり日本の中でもトップクラスの選手です。乗った時の集中力、短時間に仕上げる能力というのは、やはり備えた物があるんですよ。今マラソンをやつて、9月に選手会のマラソンをやつても認定の2時間7分位軽く走つちゃう。2時間7分というのは大変です。そういうことで非常におもしろい存在であります。

それから服部勇馬君。福岡国際マラソンで優勝しました。彼はマラソン選手らしい選手です。彼は持っているものもあるし、努力もする。やはりピタッと考える選手です。いかにもマラソン選手らしいな、という感じの選手です。

後、山本憲二君。実業団のマツダのエースです。彼は東洋大学に3兄弟で来たんです。やがてはマツダのスタッフになるのではないかと思います。後は、高校時代サッカーをやつた選手



想定外に集まった県下高校生・関係者

ナというのは走るだけのスタミナだけでなく精神的なスタミナがないと持ちません。1年間通して精神的なスタミナがないとなかなか選手になれない。ここにいる高校生の皆さんのなかにも速い選手は相当いると思います。良く指導者の言葉から「速い選手はいるけど、強い選手が出てこないんだよ」と聞きます。

強い選手とは何か?例えば長距離で言いますと、1人で走れる選手です。箱根駅伝も3区位までは接戦ですが、後半なんか1人で走らないといけない。20kmを1人で走るのは相当厳しいです。逆にいえば、華々しいところで戦えなくても、1人でコツコツやつて戦える選手はここにも必ずいるはずなんです。おれは、前半はきつけど、後半は絶対1人走りなら任せなさいという選手がいたら、東洋大学に来て下さい。入学してもらいたいと思います。競争で走れる選手はいっぱいいます。ただ、1人で走れる選手は少ない。僕は25年間スカウトしてきてそれをちよつと感じたので、後半の選手と前半の選手を色分けしてスカウトしてきました。だから、東洋大学は記録がなくても入学できる子はたくさんいます。その選手たちの持ち味を活かせるようなチーム作りをしたいと思つています。駅伝はタイムのいい選手が集まっても勝てるレースではありません。ここ数年、青山学院さんは確かにスピードを持っていますが、持久をもっている選手も多いです。明治大学さんにしても早稲田大学さんにしても、高校の時のエリートが結構入っています。でも、東洋大学の選手なんて知らない選手が多い。初優勝した時でもインターハイに出た選手は2人しかいない。それでも優勝できるんですよ。それはチームです。さつき高久龍君が区間賞を取つて酒井監督に怒られたという話をしましたが、やはり統合力、チームとして戦うという姿勢が



特別企画第三弾 鹿児島県支部創立100周年 佐藤 尚氏 特別講演会

を使いました。今、コニカミノルタにいる山本浩之君。これは東洋大学が箱根駅伝で優勝した時、2区を走りしました。この子は3年の5月までサッカーをしていました。陸上に対する捉え方に他の選手とは違うものがあります。

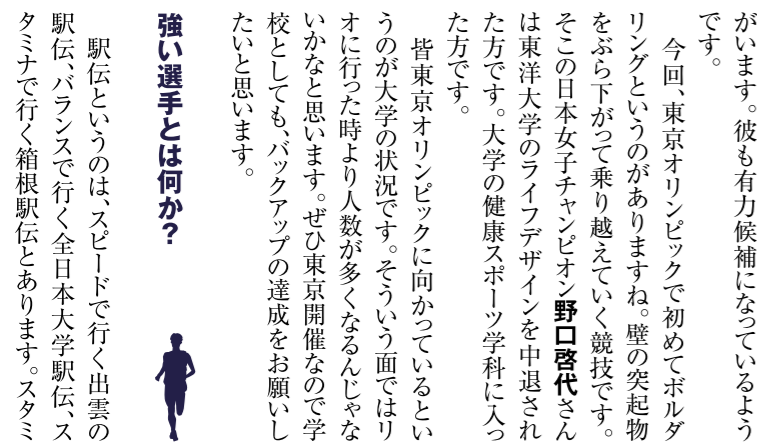
それから高久龍君という選手がいます。彼は今ヤクルトにいます。高校まではそこそこの選手でした。大学もいい時と悪い時がありましたけれど、ヤクルトに行つて本当に力をつけてきた。この選手は、うちの酒井監督からは、優勝メンバーに入つた時もそうでしたが、区間賞を取つて怒られた人間です。なかなかいいですよ。ね。区間賞はすごいことです。でも、うちの酒井監督の考え方は個よりも集団を重んじます。特に駅伝は集団の団体競技です。とにかく前を追っかけなければならぬに、そういう気持ちがちよつと欠けたところがあつたらしく、そういう悔しさで、ここに至るまでつづいてきているのかなあと感じの選手です。

また、東洋大学の中では陸上に沖縄出身で8mをポーンと飛んだ選手がいます。僕よりは小さい背丈の津波響樹君という那覇西高校からの選手です。一発ひつかつたら記録を更新する力があります。今年卒業ですが、来年にかけるのではと思います。

また今、陸上部で二番メタルに近いのは何だと思いませんか?競歩です。その一番にいなのが、池田向希君という3年生です。浜松高校の3年生の時、彼はインターハイでは5番目でした。自分から東洋大学でやりたいという希望でした。僕が「もしかしたらマネージャーでやつてもらうかも」といいましたら「マネージャーとしても練習しています。」という強い気持ちで来た選手です。今、イタリアで行われた世界学生ユニバーシアードのチャンピオンです。また、去年の世界競歩の20kmでも優勝していま



講演に聞き入る高校生・学校関係者・校友達(興味深い話が延々と続いた)



箱根駅伝



往復路完全総合優勝の瞬間(2009年正月 第85回 箱根駅伝) 高見 諒選手
1933年の初出場から77年目にして東洋大学は総合優勝(史上通算15校目)を果たした。コースに一礼した選手達の姿は多くの観衆の感動を呼び、伝説となった。



山の神・柏原竜二選手



酒井俊幸監督



陸上部 激励訪問&歓迎会(平成30年3月16日)

特別企画第三弾 鹿児島県支部創立100周年 佐藤 尚氏 特別講演会



さつき、設楽悠太という選手の話がしましたが、彼は3年の時に血液の状態が悪過ぎました。完全に貧血です。薬が嫌いで食事でなんとかしようと思っただけですが、レバナ炒めを2日間続けたら、数値が良くなりました。ここにも酒飲みの人がいると思えます。必ず1日や2日抜きましょう。そうすると調子が良いですから。ところが悠太は20日間同じものを食べ続けた。そういう食へのこだわりを徹底してやれる能力は一流です。こんなこと言ったらなんです。そこで寝たって走れるかもしれないですよ。そういう選手は。でもそれを真似してはいけない。そういう努力の仕方もあるんだということを読んでほしい。やはり持っている能力には欠かせないものがあります。身体で数値を上げられる生徒は少ないかもしれない。だから、彼が卒業する時、設楽君は「佐藤さん、お世話になりました。」と言われたが、「いや、それはお父さんお母さんに、そういう身体を作ってくれたことに感謝しなくちゃならない」というようなことを言った経緯があります。そしたらいつの間にかすいすい行って、1億円取っちゃった。今年の東京マラソンに故障で出なくて、僕と卒業生の応援に行ったのですが、その時「佐藤さん、MGCに出ないかもしれない。」というのです。「えっ、どうしたの」と聞くと、「もう1回1億出ようかな...」と。すごいじゃないですかその感覚。翌年に東京オリンピックの選考会があるのに、もう1回1億をねらってみよう...という人間で、測り知れないところがあるんですよね。

設楽君は100万円のトレーニングマシンを陸上部に寄贈してくれました。有難いことです。今、「設楽悠太寄贈」と書いて皆に使われています。1億円もらって100万円はたいしたこ

あれば勝てます。確かに与えられたステージを1人1人が走らなければならぬのは当然ですが、それ以外のものを引き出すチームの力が大きいのです。東洋大学はそういう面では真面目な走りをする。なんか面白くないなという人がいるかも知れない。ただ真面目な走りをさせる練習をさせている。もう少し明るさがあってもいいです。青山学院は明るい。めっちゃくちゃ明るい。ただ明るさも勝っているときはいいけど、負ける時も勝つ時も。変な取られ方をされる。そこが学生スポーツの非常に難しいところ。うちの連中は下積みをしつつかり積んでいくから、やはり最終的には企業に行つてからしつかり走る。

今年の正月の全日本実業団、こちらでは旭化成とかトヨタ九州九州電工などいます。その大会に東洋大学出身の選手が21人出ます。1番多くて数で言えば抜けています。それは、大学の時の指導の仕方にもあるのではないかと思います。確かに強くないといけません。勝たないといけません、とわかつています。ただ、本生としてどういったふうに行くか、大学で完全に終わらせていいのか、やはりもっと上の段階で羽ばたいてほしいのか、その指導が今回のMGCに繋がる要素の基盤を作っているのだと思います。

その1秒を削り出せ

酒井監督が「その1秒を削り出せ」という言葉をよく使っていますよね。これはチームのテーマです。非常に面白い、意味のある言葉です。削れとはちよと違ったニアンスです。これは早稲田大学に2日間東京から箱根駅伝まで走って、大手町に戻ってきて21秒、100mしか差がない。でも、負けは負けないんです。その時に出た言葉が、1秒を削り出せ、という言葉なんです。

となと思うでしょうけど、その気持ちです。僕は祝勝会に行つてバスカードを1枚もらつてきました。お金のだけの問題ではなく、気持ちを感じてできる人間になってほしいです。競技と云うのは厳しいです。その中で、先生にも親にも同級生にも、感謝しなくてはならない。東洋大学の選手が、そういう感謝の気持ちを持っているからこそ、一つづつ確実にやつていく証になっているなあと感じます。

地元の人に好かれる

今、陸上部は埼玉の川越で練習していますが、地元の人々の温かい気持ちがあります。そこでそういう人達に好かれたいといけません。地元の人に好かれる。そして学校の仲間にも好かれるチームにならないと全国では戦えないです。何をやるかということではないですが、埼玉の田舎でも交通量が多いので道路を走れないです。災害はないところですが交通事故が多いので、気をつけたいといけません。ちょうど合宿所から3kmのところ田んぼがあり、1周2.5kmのコースがあります。昔は何もなかったんですが、今は家や学校があります。そういう時に地元の人にしっかりと挨拶ができているかどうか。公道を走っている訳です。公道は借りている訳です。箱根駅伝でも道の片側しか借りていません。センターラインを越したら本当は失格。警察がダメと言つたら失格です。そういうレースです。レースの時は借りてやっているという気持ちを持たないといけません。それを何らかの形で表現しないといけないと思ひ、故障で走れない子達が、1時間前にそこに行つて、空き缶やポイ捨てのごみを拾つて道路掃除をします。また角々には交通委員を置いて、車を止めたり行かしたり、そういう配慮をして初めて練習が成り立っているの

それからテレビで放映したりするので、腕に1秒を削り出せ、と書いていたりする子もいますが、私など字を間違っていないか、心配したりしています。そういう気持ちでやるというのがチームの強さです。ちよとチーム力の弱い子がいっぱいいます。東洋大学の良いところは、夏過ぎた時にみんな同じ方向を向いていることです。それは、選手になる人、ならない人、好調な人、怪我する人、いろんな人がいて、チームが作られているのです。その時、学生が同じ方向に向けるか、それは、駅伝に限らずリレーも陸上競技そのものにも言えます。おれは選手にならないからいいや、という人が1人でもいたら勝ちはないんです。弱くても皆同じ方向になんとかしよう。僕は出られないけれども押し上げてやろう、という人が1人も増えれば勝ちに向かうのです。でなかつたら、東洋大学の優勝はなかつたです。

鉄紺の襷・ユニフォーム

初優勝の時、直前に不祥事があつて、大変な時で、学校も本当にピンチでした。そんな中でまさかの優勝でした。確かに当時は柏原というスパー1年生がいました。ただ、彼が勝つたわけではない。彼の力はそのすぐく大きい評価します。ただやはり、全員がそれを助けてつなげようという気持ちで襷(たすき)の中に繋がつていくんです。だから、言葉とか気持ちは襷に込められるんです。パトバスと同じで、襷があるから渡せばいい。でも、その襷を渡す意味は非常に大きいんです。たかが襷ですが、だからやはり僕は洗わないでつておく。いろんな験を担ぐ時があります。ご存知の通り東洋大学の襷は紺色です。濃紺。鉄紺とかよく言っています。色が、そういう色か、緑っぽい色がかつた色か、どうですか。それが一番地味な色なんです。

です。8年前からは徹底しています。今はどこに合宿に行つてもお褒めの言葉を頂けるチームになっています。これが、今日の結果に繋がっているなあと感じます。

1日の生活リズム

練習しなくちゃ強くないです。ただ、練習以外にも養えるものが大事です。それから、皆さんは家から通っている人が多いかな。1日の生活リズムを絶対に崩さない。これが一番大事です。OBの人はご存知と思いますが、柏原君は学校に通つての間は、普段の日に食事は時間が10分も違わなかった。人間は食べることでサイクルを回すのですが、それをきちつとやれたところが彼の強さがあったのです。彼は素質がある人間でもない。かっこいい走りでもないです。でも、あれだけやれたのは、生活のリズムを作つていける選手だったから保つたのです。4年間区間賞を取つた。本当に神様の要素があつた人間ではないかなと思ひます。彼は、インターハイも団体も都大路も1回も出ていない選手です。ただ、持っているものも高くない。だから長距離も早く止めたのです。それが本人にとつて良かった、と思ひます。皆さんは東京オリンピックを狙う素材だったのに、と思われたでしょうが、そこまでの素材はありません。ただ、その4年間を大学にバーンと吐き出してくれた。これは普通の選手ではできません。こだわりを持ってやつてくれた結果だ、とつくづく教え子に感謝しています。

あれは東洋大学が最初...

僕も25年の中で、いろんな悪い面も悪い面もありました。その中で、箱根駅伝が終つてゴールする時、横になつて走つた方

ね。でも、前を走るとかっこよくあります。東洋大学のユニホームは格好いいこの頃言われます。私が大学の監督をした今から25年前は、大会に出るか出ないかでやつて時代でした。それを何とか打破しようと思つて、前の武藤監督さんユニホームを変えたりいろんな事をやりました。でも、結局クリアできなかった。これだけやつてダメなら、元に戻すしかないだろうというところで、私が大学に来た25年前に、今のユニホームに戻したんです。それから何とかが落ちていてレースができるようになりました。

「1秒を削り出せ」ではないけれど、とにかく前を追つかける。駅伝は前に行かなくてはならない。いくら記録を出しても先頭を押し上げていなくては...という教えもあります。それをこの頃の選手はやるようになってきたから...ある程度の浮き沈みはありますが、ある程度の範囲に収める力、それがチームの力なんです。これは1人でできることではない。何回も言っている通り、皆で作る、やるんだということを徹底した形が今になってきているかなあと考えます。

今はいろんな条件が良いですが、駅伝は陸上部と陸上部の戦いではないんです。学校と学校の戦いです。学校に相当無理を言つても事実です。学校もいろいろバックアップしてくれる。だから勝負がつくのかなあというふうな感じ。だから、陸上部、特に長距離をやる選手は「食べる」「寝る」「練習する」のどれか欠けてもだめです。寝られなかつたら、動かなくなる。食べられなくなつても動かなくなる。上手にバランスを取つてやる。それを自分のオリジナルに作れる選手が強い選手です。

設楽悠太

向に礼する。あれは東洋大学が最初なんです。これだけは僕の実績と言いますが、勝つたことも実績かもしれません。部を指導した中でそれをやつた...初総合優勝しても胴上げをしなかつたです。なぜかというところ、不祥事...があつた時、僕が監督代行をしていた。優勝間違った、という連絡があつた時も「佐藤さん、胴上げしていいですか」と言われ、「それだけは止めなさい」と言つた。普通総合優勝したら胴上げするでしょう？それを止めさせた。それはやはり、その時の世の中の状況というか、全部が東洋大学の味方ではなく、反発する人もいたと思ひます。その中で勝つということは、喜ぶ人もいるが、「何だよ」という人だっているというのが頭の中にあつた。その代わり、君達で考えなさいと言つたら、来た方向に向かつて、初めて全員で礼をする、儀式みたいになつちやつたですね。歴史に刻むことがあつたなあと、自分なりに感心しています。その時はそういう状況の中だったので、止むを得ないということもありました。が、走らせて貰つて良かった、レースが終わつて良かった、という気持ちを表現できたことが今となっては非常にいい財産として残すことができたのかなあというふうな思ひます。今は一旦、東洋大学を離れていますが、楽しくやつています。今年1年はちよと充電しようかと思ひますが、来年以降はどこで何するかわかりませんが、陸上からは離れられないと思ひます。今日1時間駆け足で話しましたが、高校生の皆さんには、東洋大学の先生が何か言つたなあ...と1つだけでも心に刻んでくれたら、ここに座つている意味があるのではないかと、思ひます。本日はどうもありがとうございました。

(※3) 第85回箱根駅伝開催前の2008年12月1日、部員(すでに退部処分)による不祥事が発覚、事件の大きさは学内外問わず、連日マスコミの矢面に上げられ、佐藤尚コーチも対応で合宿所へ泊り込むまでに至つた。事件から5日後、選手を集めたミーティングでは「今回の教訓と反省に加えて、走らせて頂く感謝の念を説いて、選手一人ひとりの心に刻ませた」と切々と語つた。この時、佐藤尚コーチの脳裏には、優勝の二文字はなく、せめてシード権の確保、10位以内が監督代行としての責任と考えていた。